

移動市長室



筑紫南コミュニティ運営協議会

笑顔あふれる

まちづくりをめざして

通算112回目となる移動市長室を、4月26日(火)に筑紫南コミュニティセンターで開催し、筑紫南コミュニティ運営協議会の役員など10人と懇談を行いました。



筑紫南コミュニティは、市南部の七つの行政区で構成される地域で、3月末時点で7246世帯、1万8182人の人が暮らしています。

筑紫南コミュニティ運営協議会(筑紫南コミ協)は、筑紫南コミュニティのまちづくりを担う組織として、平成26年12月に設立されました。「住みやすい住んでよかった住み続けたいスマイルタウン筑紫南」をまちづくりのスローガンとし、五つの部会でさまざまな取り組みを進めています。



住民同士の「たすけあい」

筑紫南コミ協では、令和2年度に高齢者の生活支援事業「たすけ愛・みなみ」を立ち上げました。日常の簡単な困りごとを住民同士で助け合う取り組みです。現在の会員数は43人で、令和3年度は54回の活動がありました。一番多かったのは話し相手の依頼で、依頼者宅でみそ汁を作りながら話をしたこともあったそうです。

健康・福祉部会部会長の池田 清さんは「まだまだ件数は少ないですが、工夫しながら順調に活動ができています。会員を増やして、さらに地域に助け合いが広まっていけば」と事業への思いを話しました。

帰って来なくなる地域のまつりを

地域住民や学校、事業所など一体となって開催される筑紫南コミュニティの文化祭。令和2、3年度は、「エアまつり」と称しインターネット配信に挑戦しました。著作権の対応や周知などに力を入れ、視聴回数は2000回以上に達し

たそです。幅広い世代や他地域の人にも見てもらえ、成果を実感しているといえます。

さらに、令和3年度から新事業「五郎山活性化プロジェクト」が始まりました。筑紫野南中学校の卒業生を中心にワークシヨップを行い、地域から巣立った子どもたちが帰って来られる、長く続くまつりをつくろうと発案されたものです。今年10月に、市内原田の五郎山古墳で灯籠まつりを行う予定だそです。

笑顔のまちづくりのために

子どもから高齢者まで、住民が笑顔になれるよう努力を重ねてきた筑紫南「ミ協」の皆さん。学校や事業所との連携も進み、活動も充実してきましたが、スローガン達成には道半ばと向上心を見せます。

筑紫南「ミ協」会長の古川 仁敬さんは、「ミ協」の発足以来、皆が工夫を凝らして真剣に活動してきました。地域にはまだまだ素晴らしい人材がたくさんいるので、ぜひコミュニティの活動に参加してもらいたいと思います。そして、さらに活動を発展させていけたら」と力強く語りました。

参加者からの感想

- ・市長に直接お越しいただき、私たちの活動を褒めていただいたこと、ありがたい気持ちでいっぱいです。
- ・緊張しましたが、筑紫南コミュニティのよいところをたくさんお伝えすることができて本当によかったです。これからも頑張ります。



藤田市長の一言



筑紫南コミュニティ運営協議会の皆さん方の努力の積み重ねを非常にわかりやすくお話しいただき、大変充実した移動市長室となりました。

来て感じましたのは、皆さんがまさに一つになって、子育てから青少年の健全育成、高齢者の支援と、地域住民の方の生活をみんなで助け合っていることとされている。このような素晴らしい組織を作り上げていただいていることに、市長として心から厚くお礼を申し上げます。

本日お聞かせいただいた内容は、市政発展のため、今後の未来に向けてのまちづくりに役立ててまいります。本当にありがとうございます。